

あけましておめでとうございます
市民の皆様におかれましては

希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます

昨年は、市民の皆様の安全・安心の確保において、大きな一歩を踏み出すことができ、伊万里市の将来の発展につながる基礎を築いた1年であったと思います。

平成23年3月に発生した福島第一原子力発電所の事故を教訓に取り組んできた玄海原子力発電所に関連する安全協定については、平成28年2月2日に、九州電力株式会社と事前説明などに関する安全協定を、また、佐賀県と事前了解の判断時における本市への配慮などに関する覚書を締結しました。

また、原子力災害や自然災害の発生時において、いち早く情報を伝達するための防災行政無線の整備について、今後2か年での市内全域への設置に着工しました。

松島嶺地区においては、浸水対策として進めてきた馬伏雨水ポンプ場が完成したことにより、土地活用の可能性が広がり、県道の整備と併せて商業地の形成に向けた民間開発が着々と進んでいます。将来の高速交通体系の整備に伴い本市の玄関口となる地区であり、新しいまちの姿を思い描きながら、大きく期待を膨らませています。

国と地方が一体となり、地域の自律的で持続的な社会の創生をめざす地方創生については、人口減少の抑制に向け本格的な取り組みをスタートさせました。

新たに移住・定住促進の専門部署を設置し、市外からの転入者への住宅取得費用や家賃に対する支援をはじめ、本市の豊富な魅力を発信するプロモーション活動の実施、実際に本市での生活を体験できる移住体験住宅の提供など、特に都市部の若者の心に響き、「伊万里に移住したい」と思わせるような仕掛けづくりを進めます。

また、市街地の伊万里まちなか一番館にICTを活用したビジネス創造拠点である「PORTO 3316 IMARI」が誕生しました。若者が、インターネットなどの活用により、多様な能力や創造力を存分に発揮できる多くの新しい「しいと」が、ここから生み出されていくことを期待しています。

は
大きく翔ばたく節目の年に



平成29年 年頭のごあいさつ

伊万里市長 塚部 芳和

さて、平成29年は、本市の文化の振興や産業の発展を支えてきた伊万里港が開港50周年を迎えます。中国・大連市との友好交流30周年とも重なることから、市民の皆様とこの記念すべき年を祝い、次なる50年における伊万里港のさらなる振興とともに、本市が未来に大きく翔ばたくための節目の年にしたいと考えています。

来年度、待望の西九州自動車道の伊万里東インターチェンジ（仮称）が開通し、観光誘客の主要なターゲットである福岡都市圏との移動時間がさらに短縮されます。この貴重なチャンスを本市の成長にしっかりと生かし、観光や産業の振興に努めていきます。

また、若者の定住促進に不足はならない「しごと」づくりについては、若者の就職先としてニーズが高い事務系企業を誘致するためのオフィス・スペースの確保とあわせて、製造業の受け皿となる新たな工業団地の造成にも着手し、優良企業の誘致につなげていきます。

市民生活に必要な機能を集約・確保し住み続けられる地域をめざす「小さな拠点」づくりとして、大川町でコミュニティ運営協議会による地域バスの運行が始まります。これは本市のモデル地区である波多津町に続く取り組みであり、このような成功例の市内他地区への拡大を図るなど、地域のまちづくり活動を積極的に支援します。

市街地においては、多くの飲食店で開催された『伊万里GYU・GYU・バル』など、市外からの来訪者を引き寄せる魅力的なイベントが開催されています。「伊万里を元気にしたい」という思いが、若者の自由な発想と行動力により、形として表れてきていることを大変心強く感じています。

新年を迎え、決意を新たに、伊万里ならではのまちづくりとしての地方創生を市民の皆様と一緒に進めてさらに展開し、本市がめざす「活力あふれ ひとが輝く 安らぎのまち 伊万里」の実現に向け全力を傾注してまいります。

皆様のなお一層のご協力を心からお願いいたします。

伊万里港50年の歴史を礎に、

※背景写真はドローン（小型無人航空機）により撮影